

12th APNIC Open Policy Meeting Summary Report

1. 期間：2001年8月28日（火）～ 2001年8月31日（金）
2. 場所：台湾 台北市 The Grand Hotel 他
3. 参加者：IP事業部 荻野 司、佐藤 香奈枝、奥谷 泉、大堀 暢哉、江面 祥行
4. 目的：
 - IPv4 アドレス割り振り・割り当てポリシーに関し、ポリシー変更に対応するために最新情報の収集を行う。
 - JPNIC からの IPv6 アドレス割り振り・割り当てポリシーの提案についてのサポートを行い、アジア太平洋地域でのコンセンサスに導き、IPv6 における日本のイニシアティブを形成する。
 - ホストマスタ・コンサルテーションや NIR ワークショップを通して、APNIC ホストマスタや他の NIR ホストマスタとの審議情報の交換を行い、APNIC や他の NIR との審議基準の均一化に結びつける。
 - Routing SIG や DB SIG を通して、最新技術情報の収集を行い、今後のポリシー策定や審議に役立てる。
 - NIR ミーティングや意見交換会を通して、KRNIC、TWNIC 等他の NIR との情報交換を行い、国際協調の関係を築く。

5. セッション概要

5.1. Address Policy SIG

http://www.apnic.net/meetings/12/sigs/address_policy.html

- 前回（2001年3月）にマレーシアで行われた Address Policy SIG で提案された CATV/xDSL 向けの APNIC ポリシ検討 Working Group（2001年6月、JPNIC からメンバーとして参加し、JPNIC にてミーティング開催）の検討結果について、Seung- Min Lee 氏より報告、WG からの提案が行われた。
 - 本提案に関して、概ねコンセンサスに至った。JPNIC が積極的に関わって WG の検討・提案が行われたことが対外的にアピールできた。
- IPv4 アドレスの初期割り振り、プロバイダ非依存アドレスの割り当てサイズを/20 にする内容の提案が APNIC Anne Load 氏から行われた。

- コンセンサスに至った。現在の JPNIC の初期割り振りサイズは、歴史的経緯から/22 であるために、変更に伴う影響を考慮の上、条件の見直しを行っていく方向で進める。

5.2. Joint Address Policy / IPv6 SIG

http://www.apnic.net/meetings/12/sigs/joint_ipv6.html

- IPv6 割り振り・割り当てに関するポリシーについて、日本からのボトムアップ型の提案として、IP アドレス検討委員会の荒野氏より提案を行った。APNIC Paul Wilson 氏からも IPv6 割り振りポリシーの提案が行われたが、初期割り振りサイズや追加割り振り基準など細かい数字の部分の摺り合わせで、翌日に持ち越して継続議論となった。2 日目には、JPNIC 提案と APNIC 提案を融合した内容でコンセンサスとなった。
 - 今後は、コンセンサスの得られた内容を RIPE, ARIN でのミーティングにおいて、提案活動を継続していく必要がある。今回、JPNIC の提案内容が概ね反映された内容でコンセンサスが得られたことで、IPv6 に関するポリシー形成における JPNIC のイニシアティブが発揮できた。

5.3. NIR Workshop

- 新規、追加それぞれのアドレス申請について、事前に NIR 毎に質問事項を考え、プレゼンを行ない、それを基にディスカッションを行なった。
 - JPNIC から申請者に行っている確認事項が APNIC、各 NIR と各申請毎に差があることが確認できた。この差異については別途纏め、今後の審議に役立てていきたい。

5.4. NIR Meeting

http://www.apnic.net/meetings/12/programme/nir_meeting.html

- 2001 年 4 月に行った JPNIC 会費制度の見直しについて、JPNIC より報告を行った。
 - 他の NIR である KRNIC や TWNIC も IP 事業とドメイン事業の分離に関心を持っており、情報の交換を行うことで他の NIR との国際連携を強化することができた。
- APNIC Paul Wilson 氏から NIR の新しい割り振りスキームとして、NIR を APNIC のエージェントとするモデルの提案が行われた。

- NIR がどうあるべきということを考え直すきっかけとなり、今後 NIR の役割が議論されていくことになる。

5.5. APNIC Member Meeting

<http://www.apnic.net/meetings/12/amm/index.html>

- アジア太平洋地域における ICANN ASO の Jianping Wu 氏の任期満了に伴い、改選が行われ、投票の結果、JPNIC も支持をした Kenny S. Huang 氏 (TWNIC/AsiaInfra International Ltd) が当選した。
 - Kenny 氏の当選によって、TWNIC と友好関係が築けた。結果として、今後の国際調整が行い易くなるであろう。
- APNIC Membership Fee の変更について、従来の Small/Medium/Large のカテゴリに加えて新しいカテゴリ (Associate/Very Small/Extra Large) の追加及び会費、Vote 権の変更について APNIC Paul Wilson 氏より提案が行われ、投票の結果、上記提案について承認がされた。
 - JPNIC においては、この決定により、現在よりも費用に対する vote 数が多くなる。

6. 成果

- CATV/xDSL ポリシ検討 Working Group からの提案が概ねコンセンサスに至ったことで、JPNIC からの貢献を対外的にアピールできた。
- IPv4 アドレスの初期割り振り、プロバイダ非依存アドレスの割り当てサイズを/20 にする内容の提案を現場で情報収集してきたことで、JPNIC ポリシの変更へのアクションをタイムリーに実施することができた。
- IPv6 に関するポリシ提案がコンセンサスを得たことで、JPNIC のイニシアティブを発揮でき、アジア太平洋地域の中で、IPv6 に関する JPNIC の優位性をアピールできた。
- NIR ワークショップやホストマスタ・コンサルテーションを通じ、JPNIC 審議が他の NIR に比べて差異が存在するという現実を知ることができ、今後の審議業務を行う上で役立つ情報を得ることができた。
- KRNIC や TWNIC 等、他の NIR との情報共有や親睦を図ることで、今後の連携や交渉を行いやすい関係を築くことができた。

以上